

一般社団法人日本歯科医学会連合
医療職連携員会フォーラム
プログラム・抄録集

「歯科衛生士と歯科技工士の
専門資格獲得を啓発する」

2022年11月13日（日）13:00～14:20

オンライン（ライブ）開催+オンデマンド配信（11月13日～12月23日）

事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12 第三東郷パークビル 4F
一般社団法人 日本歯科医学会連合
Fax: 03-3263-7761 E-mail: jimukyoku@nsigr.or.jp



医療職連携員会フォーラム

「歯科衛生士と歯科技工士の専門資格獲得を啓発する」

開催趣旨

一般社団法人日本歯科医学会連合医療職連携委員会では、広告可能な専門資格制度の確立とさらなる普及に向けた公益社団法人日本歯科衛生士会、一般社団法人日本歯科技工学会の活動を支援しています。少子高齢化が深刻化し、疾病構造が変化している現代社会のニーズに対応するため、歯科医療職間・医科歯科連携を始めとする関係職種間の連携が望まれており、高い専門性を有する歯科衛生士、歯科技工士が求められています。

本フォーラムでは、医療職の専門性を高めるため、3名の先生にそれぞれの立場から専門資格獲得の取り組みや課題についてお話しいただきます。はじめに、本委員会副委員長・専門歯科衛生士制度検討WG委員長の山本松男先生に一般社団法人日本歯科専門医機構の認定歯科専門医制度の現状と具体例として日本歯周病学会歯周病専門医制度を概説いただきます。次に、一般社団法人日本歯科技工学会の石川功和会長には歯科技工士専門制度確立の経緯と今後の課題についてお話しいただきます。最後に、公益社団法人日本歯科衛生士会の吉田直美会長には専門歯科衛生士制度の現状と今後の課題についてお話しいただきます。

本フォーラムを通じて、歯科衛生士及び歯科技工士の皆様が専門資格の取得を目指して積極的な気持ちになることを期待しております。

一般社団法人 日本歯科医学会連合
理事長 住友 雅人
副理事長 松村 英雄
医療職連携委員会 柳井 智恵
山本 松男
大川 周治
築瀬 武史
吉田 直美
石川 功和
岩田 洋

「歯科衛生士と歯科技工士の専門資格獲得を啓発する」

日時 令和4（2022）年 11 月 13 日（日） 13:00～14:20

オンライン（ライブ）開催+オンデマンド配信（11月13日～12月23日）

【プログラム】

	司会進行	医療職連携委員会	委員長	柳井 智恵
13:00 開 会				
開会の辞		医療職連携委員会	委員長	柳井 智恵
挨拶		日本歯科医学会連合	理事長	住友 雅人
フォーラムの趣旨説明		医療職連携委員会	委員長	柳井 智恵
13:10～講 演				
1. 一般社団法人 日本歯科専門医機構認定歯科専門医について				
山本 松男 副委員（昭和大学歯学部 教授）				
2. 一般社団法人 日本歯科技工学会における専門歯科技工士制度について				
石川 功和 委員（一般社団法人 日本歯科技工学会 会長）				
3. 公益社団法人 日本歯科衛生士会における認定歯科衛生士制度について				
吉田 直美 委員（公益社団法人 日本歯科衛生士会 会長）				
14:10～まとめ		医療職連携委員会	委員長	柳井 智恵
閉会の辞		医療職連携委員会	副委員長	山本 松男
14:20 閉 会				

一般社団法人 日本歯科専門医機構認定歯科専門医について

山本 松男

昭和大学歯学部 教授



抄 録

急速に変化する社会に良質な医療を提供するために専門性を高めることは必須であるが、専門資格制度は医療人のキャリアパスの大きな柱の一つでもある。個人の向上心を維持しつつ、体系的な研修項目を整備して生涯研修につなげていかなければならない。

従来、医科も歯科も学会が独自に専門医制度を構築してきたが、領域重複や認定基準不揃い等の問題があり、また国民の視点ではどの医療機関を受診したらよいか名称だけでは不明確という大きな問題もあった。そこで、2014年に一般社団法人日本専門医機構が、2018年に一般社団法人日本歯科専門医機構が設立された。現時点で、従来から広告可能であった5領域の歯科専門医資格（口腔外科、歯科麻酔科、小児歯科、歯科放射線科、歯周病科）は改めて日本歯科専門医機構に認定され、さらに追加新領域5分野を含め国民にも理解しやすい制度の整備が進められている。各歯科専門医は機構認定共通研修の受講が義務づけられ、良質な医療の提供の基盤となっている。専門医制度の具体例として日本歯周病学会歯周病専門医制度を紹介する。

本Webフォーラムが、歯科衛生士、歯科技工士の専門性資格制度の構築の参考になれば幸いである。

略 歴

平成 4年(1992) 東京医科歯科大学歯学部卒業

平成 8年(1996) 東京医科歯科大学大学院修了・博士(歯学)

平成 9年(1997) 米国アーカンソー州立医科大学内分泌部門・骨粗鬆症センター
リサーチフェロー

平成 12年(2000) 鹿児島大学歯学部助手(歯科保存学講座(2))

平成 14年(2002) 鹿児島大学生命科学資源開発研究センター助教授

平成 17年(2005) 昭和大学歯学部教授(歯周病学講座)

学会活動

日本歯周病学会（常任理事、専門医、指導医）

日本歯科保存学会（理事、専門医、指導医）

日本歯科教育学会（理事）

ジャパンオーラルヘルス学会（代議員）

日本歯科医学会連合・医療職連携委員会（副委員長）

日本歯科医学会連合・医療職連携委員会・専門歯科衛生士制度検討WG（委員長）

日本歯科医学会学術大会実行委員（第24回）

日本医工ものづくりコモンズ（会員、評議員）

一般社団法人 日本歯科技工学会における専門歯科技工士制度について

石川 功和

一般社団法人 日本歯科技工学会 会長



抄 録

日本歯科技工学会では定款にうたわれている「歯科技工学の進歩並びに知識の普及に貢献し、医療に関する学術文化および国民の福祉と医療の発展に寄与する」の実践を学会発足以来心掛けておりました。このことをさらに充実させるために1999年(平成11年)認定士制度を発足させました。

以来学術大会を毎年開催し、機関誌も年2回発行し会員の知識および技術の向上を図ることを心掛けております。

近年、歯科の進歩は目覚ましく、より専門性を要求されるに至っています。日本歯科技工学会では各分野における専門性をより充実させるためにも専門士制度を活用したいと考えます。さらに日本歯科技工学会は医療施設内において広告可能な専門歯科技工士を発行できる種々の条件を満たす唯一の学会です。広告可能とは歯科診療所管理者のみならず、医療施設内において患者への告知にもつながり、歯科技工士の認知度も高め日頃の臨床への取り組みにも励みが出るものと考えます。

今回、日本歯科技工学会における専門士制度の意義を解説し皆様の理解度を高めたいと思います。

略 歴

- 1952年 東京都出身
- 1974年3月 日本大学歯学部附属歯科技工専門学校 卒業
- 1974年4月 村岡歯科勤務(昭和49年)
- 1987年3月 歯科技工士免許取得(昭和62年)
- 1993年9月 村岡歯科退職(平成5年)
- 1993年4月～1999年3月 東京都歯科技工士会中央支部学術担当理事
- 1993年10月 I. A. C. 開設 現在に至る
- 1999年4月 東京都歯科技工士会常務理事(平成11年)

1999年8月 日本歯科技工士会認定講師取得（平成11年）
2006年3月 日本歯科審美学会認定士取得（平成18年）
2006年4月～2008年3月 東京都歯科技工士会中央支部 支部長
2008年4月 日本歯科審美学会理事（平成20年）
2008年4月 東京都歯科技工士会副会長
2014年9月 日本歯科技工学会副会長（平成26年）
2017年6月 東京都歯科技工士会会長 現在に至る（平成29年）
2019年6月 日本歯科審美学会副会長 現在に至る（令和元年）
2022年6月 日本歯科技工士会常務理事 現在に至る（令和4年）
2022年6月 日本歯科技工学会会長 現在に至る

所属学会

日本歯科審美学会
日本歯科技工学会
日本デジタル歯科学会
社会歯科学会

公益社団法人 日本歯科衛生士会における認定歯科衛生士制度について

吉田 直美

公益社団法人 日本歯科衛生士会 会長

国立大学法人 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 教授



抄 録

日本歯科衛生士会（以下、本会）では、歯科保健医療の進歩とニーズ変化に応えるため、新たな知識・技能の習得を図り、歯科衛生士の資質と業務の質を高めることを目的として、1989年に生涯研修制度を開始し、2008年には認定研修制度を開始した。本講演では、近年の歯科衛生士の職域の拡大、業務変化の特徴を背景として説明し、それに伴う認定研修の拡充経緯ならびに現在の認定制度について紹介する。さらに、本会が主体となって企画・実施する認定研修分野の6コース（生活習慣病予防、摂食嚥下リハビリテーション、在宅療養指導・口腔機能管理、糖尿病予防指導、医科歯科連携・口腔機能管理、歯科医療安全管理）における、これまでの認定者数、認定への認識状況を示し、認定制度の重要性と今後の課題について検討を加える。また、医療職全体がより高度な専門職制度を設けている中で、本会として歯科衛生士のための制度をどう捉え、進めようとしているのかにも触れられればと思う。

本講演を通し、本会の役割、制度の必要性を改めて考え、資格取得への意欲を高めていただければと考えている。

略 歴

学 歴

東京都立大学大学院都市科学修士課程修了

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了

職 歴

東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科衛生士

東京医科歯科大学歯学部歯科衛生士学校 講師

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科 講師

千葉県立保健医療大学健康科学部歯科衛生学科 教授 2017年より現職

2021年より公益社団法人日本歯科衛生士会 会長

資 格 歯科衛生士、公認心理師

所属学会

日本歯科衛生学会

日本口腔衛生学会

日本老年歯科学会

日本障害者歯科学会、

日本歯周病学会 ほか